

オリンピック パラリンピック観光推進

特別委員会行政視察報告書

1 日程

平成 30 年 11 月 5 日（月）～ 6 日（火）

2 視察先及び視察項目

(1) 山口県

サイクル県やまぐち Project の取り組みについて

(2) 山口県萩市

萩・明治維新 150 年記念事業に伴う観光振興について

3 視察委員

- | | | |
|--------|---------|---------------|
| ○ 委員長 | 秋 成 靖 | 大田区議会公明党 |
| ○ 副委員長 | 塩野目 正 樹 | 自由民主党大田区民連合 |
| ○ 委 員 | 松 原 秀 典 | 自由民主党大田区民連合 |
| | 高 瀬 三 徳 | 自由民主党大田区民連合 |
| | 長 野 元 祐 | 自由民主党大田区民連合 |
| | 松 本 洋 之 | 大田区議会公明党 |
| | 末 安 広 明 | 大田区議会公明党 |
| | 菅 谷 郁 恵 | 日本共産党大田区議団 |
| | 金 子 悦 子 | 日本共産党大田区議団 |
| | 三 沢 清太郎 | たちあがれ・維新・無印の会 |
| | 黒 川 仁 | おおた国民民主党 |

4 視察項目の概要・所感

【所感】は、項目ごとに各会派としての所感を記載。

(1) 山口県

◆視察項目

サイクル県やまぐち Project の取り組みについて

【概要】

山口県では、ポタリング、サイクリングからプロツアーまで、ロードバイクからマウンテンバイクまで、どの都道府県よりも幅広いジャンルで総合的にサイクルスポーツ振興に取り組むことにより、来県者を増やし、交流人口の拡大を目指している。

県は、瀬戸内海の多美島と日本海の青い海の双方を楽しむことができる長い海岸線（全国6位）や雄大な緑の自然を感じることができる「秋吉台」などの魅力的な景観、整備された道路網、自転車関連産業の立地、そして各地域の特色ある地域資源など、「誰でも楽しめるサイクルスポーツ」に適した環境に恵まれている。

近年、サイクルスポーツが趣味としても、競技スポーツとしても、大規模なイベントとして開催され、大きな盛り上がりを見せている中で、県のこうした強みを活かしたサイクルスポーツの振興に取り組むことにより、県外や海外のサイクリストや関係者を呼び込み、交流人口の拡大を図っていきたいと考えている。

平成28年度に推進協議会を立ち上げ、本プロジェクトを開始し、サイクルスポーツ環境を整備するとともに、効果的な情報発信としてサイクルスポーツ関連情報等を一括して紹介するサイクルポータル制作運営なども行っている。



(山口県ホームページ及び視察資料から引用)

【所感】

(自由民主党大田区民連合)

「サイクル県やまぐち」プロジェクトとは、より一層のサイクルスポーツ環境の充実を図り、国内最高峰のレースや国際大会なども招致をしながら、交流人口の拡大と地域の活性化を目指すものでありました。山口県のこの取組は、大田区にとっても、スポーツ推進・観光推進のため大いに参考になりました。大田区には一級河川・多摩川があり、歩く方・走る方と共に自転車に乗って走る、サイクルスポーツをする方々にとっても魅力溢れる環境があります。また、これからは臨海部の「海辺の散策路」に大きく期待できるものがあります。

ただし、山口県の視察では平日のためか残念ながら、サイクルスポーツをする方々を見かけることはありませんでした。同様に、大田区の大摩川でも、歩く方・走る方とサイクルスポーツをする方との棲み分けに課題があり、それは特に休日において顕著であります。それは逆を言えば、平日にこそ焦点を当てつつ、常時活性化を推進するべきという課題でもあると考えます。

今後とも、世代や性別を超えて、常時、スポーツ及び観光を楽しめる大田区にしてまいりたいと思います。

(大田区議会公明党)

観光のキラコンテンツがない山口にとって、それを補う取り組みの1つとして、知事の強い思いから平成28年からスタート。これからの楽しみな段階。隣の広島や愛媛が先進県。費用としては低コストで、効果を期待出来るような取り組み。東京から1時間半。羽田空港の役割が本当に地方から期待されている。自転車は、子供も大人も、アマもプロも、共通に出来る。また、長い距離を時間をかけて回ってもらう効果があり、来訪者に、お金と時間をつかってもらえる。地方はここに知恵を出し合っている。「サイクルスポーツ振興」プラス「文化・観光施策」との連携として、シンボルイベントとなるサイクルレースを呼び込み、関連イベントで盛り上げる。そのことにより、来た人が、選手が、県の良いところを発信してくれる。とは言うものの、広報の面を大きな課題と認識されていた。ここは行政の限界。いかに民間を巻き込めるかが今後の取り組みになる。

知事がキーマンになることには間違いがない。何事も、いずれの地でも首長の裁量一つで物事が決まる。本区の良さをどのように発信していくか改めて考えてみたい。



山口宇部空港に設置されている
サイクルピット

(日本共産党大田区議団)

この事業は、山口県は観光資源があまりないが、自転車でもわってもらい休んでもらう、食事してもらい、リピーターとして来てもらう事を目標として、県知事が音頭を取って平成 28 年から始めた事業との説明がありました。1 年目は計画策定、2 年目は、受け入れ整備、3 年目は一定の成果をあげなければならないとのことで、意気込みと苦労を同時に感じました。

イベントを計画しても、台風で中止になったり、企画のことを県民の 3 分の 1 は知らない、県が始めたので、市、町、民間との意識の格差、情報発信の方法など課題も語られました。

山口県では、「する・観る・支える」サイクルスポーツ、交流人口、平成 30 年 30,000 人としています。気軽で、身近な自転車で、すぐに成果は出ない事業ですが、様々な分野の方々から知恵と力をもらい、県民の皆さんにも、「するスポーツ」として位置づくのならば、さらに発展するのではないかと思います。



(たちあがれ・維新・無印の会)

近年はサイクルスポーツ愛好者が増えてきた事もあり、山口県は立地の強みを活かし、観光事業にも結びつけようとしているのが本取組です。

本格的なプロツアーからサイクリングまで多様なサイクルスポーツを楽しむような環境整備もされております。実際に私も菘でシェアサイクルを借りましたが、近隣観光施設を巡るのにとっても重宝しました。サイクルステーションは沢山あるため借りた場所と異なる場所で返却しましたが手続きに手を焼くことはなく、充実したポタリングができました。

大田区で本取組を活かすとしたら他自治体と連携し、国道 15 号や多摩川沿いにサイクルピットやサイクルエイドを設けるとサイクルスポーツ愛好者の利用が増えるかもしれません。そして何よりも国際線ターミナルに駐輪場ができたとはいえ、お世辞にもサイクリストに優しい環境とは言えない羽田国際空港がサイクルフレンドリーな空港に進化を遂げることが区内の自転車道整備にも繋がり、国内外から区に人が集まる起爆剤の 1 つになるのではないのでしょうか。大田区の課題と解決策を模索する機会を作る視察となりました。

(おおた国民民主党)

全国各地で自転車やウォーキングによる周遊空間の創出が行われる中、サイ

クル県と言えば、広島県や愛媛県、和歌山県、青森県などが有名である。山口県でも平成 28 年度に「子どもから大人まで、初心者も含めて、幅広い年齢・レベルの人々が、県内のあらゆる場所で、年間を通じて、サイクリングからプロツアーまで様々なジャンルのサイクルスポーツを快適に楽しむこと」を目的にプロジェクトが始動し、詳細なスキームを設定している。

人を集めるキラー・コンテンツがない中で、レース中心の「シンボルイベントの開催」から「サイクルスポーツ環境の整備」や「効果的な情報発信」を行っている。秋吉台や関門トンネル、柳井周辺など、3つの広域的なメインルートと道の駅や観光施設などをつなぐ9つのスタンダードルートを設定している。今後は近隣県と連携に加えて、全県的な環境整備を進めるべく、サイクルスポーツ人口拡大に向けた市町の取り組みを支援していくという。的確な現状認識や様々なイベントのコラボレーション、施策の効果測定など大田区においても是非参考にすべきである。



(2) 山口県萩市

◆視察項目

萩・明治維新 150 年記念事業に伴う観光振興について

【概要】

萩市は、平成 30 (2018) 年に「明治維新 150 年」の節目の年を迎えるにあたり、「明治維新胎動の地」として、近代日本の扉を開いた先達の歴史をひもとき、維新の精神を風化させることなく、幕末・維新の萩物語を将来につなげていくとしている。

明治維新 150 年を機に、萩を学び萩を語る舞台として「萩・明倫学舎」が誕生した。「萩・明倫学舎」を核とし、『萩・明治維



新 150 年祭』と銘打ち、振り返り、未来につながる記念事業を市全域で展開している。事業の核となる萩・明倫学舎は、萩藩校明倫館の跡地に建つ。平成 26 年 3 月まで授業が行われていた旧明倫小学校校舎を、新たな萩の観光拠点とするため、平成 29 年 3 月 4 日、萩・明倫学舎としてオープンした。

(山口県萩市ホームページから引用)

【所感】

(自由民主党大田区民連合)

当委員会は、勝海舟記念館開館を控え、山口県萩市における「萩・明倫学舎」に関連する事業について視察を行った。同館は明治維新 150 周年記念事業の一環として、萩藩の藩校である明倫館跡地に建てられた木造校舎を活用し、平成 29 年 3 月に現在の本館と 2 号館が開館した。

萩市の有力な観光資源であり、明治維新 150 周年関連事業の中心的役割を担う施設である。施設管理は N P O 萩明倫学舎と市の共同管理であり、29 年度の入場者は約 33 万 8 千人であった。同館の展示物の大半が市内在住の篤志家による寄贈であり、質、量ともに非常に充実したものである。

明倫学舎周辺は松蔭神社など、吉田松陰やその門下生など、幕末の偉人たちに所縁の地が点在しているが、鹿児島市の「維新ふるさと館」や大河ドラマ関連施設、寺社や史跡などが市内に密集しているロケーションとは対照的でもある。また、小学校の校舎として使われていた経緯から、歴史だけに限らず、長い廊下を利用した雑巾がけレース大会やお化け屋敷など、ユニークな子ども向け行事なども開催されている。



「雑巾がけレース大会」が行われる長い廊下

(大田区議会公明党)

萩市ではDMO戦略に基づき、5年計画で目標を持った取り組みが進められている。萩には観光上の強みが、多く存在している。一方で立地上、呼び込んで来なければ来てもらえない場所とも言える。また観光が産業の肝であり、観光の成否が街に及ぼす影響は大きい。その点で、本区とは観光の位置付けが大きく異なる。その萩市においても、一部の観光中心地にどれだけのお金を投下して、観光施策を拡充させていくのかについては、住民の意見が分かれる部分であることも伺った。観光施策がもたらす住民のメリットをしっかりと共有し、街づくりに活かしていかなければいけないという点も学ばせて頂いた。

本区でも勝海舟記念館がオープンする。また羽田空港というアイテムをどの

様に活かして地域の活性化につなげ、魅力を高めていくのかが問われている。しっかりと本区の立ち位置を意識した上での観光施策の在り方について、厳しい視点で見定めていきたい。

(日本共産党大田区議団)

明倫学舎の建物や展示は、大変興味深い。小川コレクションは6,000点のうち600点展示がされており、幕末にアメリカ、イギリス、ドイツから銃器を多数買い込んだ状況がよく分かった。地球儀、顕微鏡、象限儀など科学技術の進歩で、幕末に相当の力を蓄えていたということがわかる展示で、しかしその結果、朝鮮半島や中国への侵略に繋がっていったのかと思ったが、その点については希薄な感じがした。萩版DMO戦略は、区域外の人を呼び込むことには大変熱心で、税財源をつぎ込んでいることは事実であり、そのことが市長選挙で争点になったとのこと、議会報告では、3号館、4号館の建設は止まっているそうで、市民から一定の批判を反映しているのであろう。ホテルにも、吉田松陰などの副読本などが置かれており、市民の認知度は相当高いのであろうと思われるが、市民生活の底上げには寄与していないのではないか。NPOと共同して運営されていて、働いている人のモチベーションは違うと感じた(出身校が明倫小学校であることなど)。

観光施策は、市民生活向上にどれほど貢献しているのか、という指標も必要ではないか。

(たちあがれ・維新・無印の会)

萩・明倫学舎は、明治維新150年の節目の年を迎えるにあたり、旧明倫小学校校舎を新たな萩の観光拠点とするため、平成29年3月4日にオープンしました。明治維新胎動の地である萩市は、吉田松陰や高杉晋作をはじめ、多くの近代日本の礎となった人材を輩出しています。明倫学舎では、特に、国禁を犯し、命をかけて近代化に挑んだ5人の萩藩士「長州ファイブ」について多く取り上げていました。ビデオ、アニメ、ホログラム等を用いた飽きさせない展示は大いに参考になりました。また、明倫小学校で教鞭をとっていらっしゃった方の紙芝居では高杉晋作の生涯をわかりやすく学ばさせていただき、人の暖かみを存分に感じる事ができました。



「NPO萩明倫学舎」による
ガイドを体験視察

(おおた国民民主党)

平成 29 年、明治維新 150 年記念事業の一環として、藩校跡地に建つ木造校舎を保存・改修して、「萩・明倫学舎」が開館した。萩・明倫学舎は、萩観光の起点として、更には明治維新の礎を築いた萩教育の原点を学ぶ場として活用されている。本館と 2 号館に分かれ、本館 1 階には観光情報センターやカフェ・レストラン、お土産ショップや多目的室があり、本館 2 階には、展示室やビジターセンター、展示映像室がある。2 号館には、世界遺産ビジターセンターや幕末ミュージアムがあり、歴史の薫りの中で明治志士たちの熱い思いに触れることができる。事業費は約 15 億円。約 3 分の 1 が国庫補助金で、約 3 分の 1 が合併特例債、残り約 3 分の 1 が一般財源と基金繰入金となっている。ちょうどこの記念事業が動いている途上で萩市の首長が、民間の金融畑出身の方に交代して、文化振興に対する温度差に市職員の方々が苦勞されたお話が印象的であった。文化振興に対するビジョンはトップの交代で揺らぐことであってはならない。